

○ 指導室

1 学校における教育課程及び学習指導並びに専門的事項の指導に関すること

(1) 町内小中学校定例校長・教頭会議の対応（毎月1回及び臨時）

- ① 教育委員会からの連絡及び協議
- ② 今日的教育課題の資料の提示並びに指導の依頼
- ③ 各種調査・提出物等の依頼
- ④ 各種研修講座等への参加状況報告並び依頼
- ⑤ 教育関係年間行事予定の月ごとの微調整

(2) 学校教育訪問指導の推進

- ① 教育局義務教育指導監による経営指導訪問（全町立学校実施）
- ② 教育局指導班指導主事による要請訪問指導
- ③ 定期的な指導室長の訪問指導（各町立学校実施）

(3) 各種計画書作成の推進

- ① 教育課程編成届（白糠町立学校管理規則第34条の規定）
- ② 学校経営計画書

(4) 関係機関・団体との連携による推進事項

- ① 白糠町教育研究所
 - (a) 5月・2月集会への対応
 - (b) 所員会議における助言
- ② 生徒指導研究協議会
 - (a) 今日的課題にかかわる指導の対応
 - (b) 講演、研究協議への参加
 - (c) 管内生徒指導連絡研究協議会への対応
 - (d) 白糠町こども会議の運営指導・補助
- ③ 進路指導協議会
- ④ 教育相談
 - (a) いじめ、不登校など心の教育相談への対応
 - (b) 育成センター青少年育成指導員との情報・意見交換
 - (c) 相談窓口のPR

相談窓口

| | | |
|---------------------------|--------|-------------|
| ☆白糠町教育委員会（指導室） | 2-2171 | （内線266） |
| ☆青少年育成センター | 2-3377 | （専用電話） |
| ☆やまびこ児童館 | 2-2081 | |
| ☆ふれあい児童館 | 5-4006 | |
| ☆白糠町子育て支援センター | 2-2155 | （何でも子ども相談室） |
| ☆白糠町子ども発達支援センター | 2-2228 | |
| ◆相談時間：月曜日～金曜日（9:00～17:00） | | |

⑤ 幼小中高の連携、小中一貫教育の推進

- (a) 学校教育、家庭教育、青少年の健全育成、ふるさと教育、環境教育、ボランティア活動等を通じた地域の教育力の向上

- (b) 開かれた学校の交流、連携
- (c) 幼小・小中・中高各学校間の計画的、継続的交流の推進
 - ・白糠地域の主な連携内容
 - …行事を通しての児童生徒間交流・合同研修の実施（公開研）・後期課程教員による乗り入れ授業の実施・教職員交流・保護者交流
 - ・庶路地域の主な連携内容
 - …行事を通しての児童生徒間交流・合同研修の実施・後期課程教員による乗り入れ授業の実施・教職員交流・保護者交流
 - ・茶路地域の主な連携内容
 - …中学校教員による単元担任制での乗り入れ授業・教職員交流・合同研修・小中各種行事交流

2 教職員等の研修に関すること

(1) 研修講座等への参加奨励

- ① 北海道立教育研究所の各種研修講座
- ② 北海道立理科センターの各種研修講座
- ③ 北海道立特別支援教育研究センターの研修講座
- ④ 釧路教育研究所講座、釧路教育研究センター研修講座・講演
- ⑤ 町教育研究所研修事業、国立・市町村立学校指定研究会
- ⑥ 北海道教育委員会、教育局主催の各種研究協議会・研修会・講座・講習等
- ⑦ 町教育委員会主催研修事業、町教育委員会指定校発表会、町研協力校発表会、町研究協議会主催講演、PTA主催事業等

(2) 町教育研究所研究指定

- ・1年次…庶路学園
- ・2年次…茶路小中学校

3 外国語指導、国際交流活動

(1) 外国語指導助手（中国語）「テイ・エソウ」中国国籍

外国語指導助手（英語）「ポピエルク・マリア・ルドウィッカ」アメリカ国籍

外国語指導助手（英語）「ロメロ・マリア・グアダルーペ」アメリカ国籍

外国語指導助手（英語）「バースロング・ブランドン・アレン」アメリカ国籍

（いずれもJET事業の活用による）

(2) 任用 P.マリア : 令和6年7月～

R.マリア : 令和6年7月～

ブランドン : 令和6年8月～

テイ・エソウ : 令和7年4月～

(3) 令和7年度活動状況

テイ・エソウ ～町立学校におけるECタイムを週4・5日及び白糠こども園・庶路こども園での中国語に親しむ活動を2週間で1日。

R.マリア ～白糠学園での外国語活動と英語科の授業を週2日ずつ、白糠こども園等での英語に親しむ活動を週1日。また、白糠高等学校での英語の授業を週1日。

ブランドン ～庶路学園での外国語活動と英語科の授業を週2日ずつ、庶路こども園等での英語に親しむ活動を週1日。また、白糠高等学校での英語の授業を週1日。

P. マリア ～茶路小中学校での外国語活動と英語科の授業を週2日ずつ。
 また、こども園等での英語に親しむ活動を週1日。白糠高等学校での英語の授業を週1日。

※この他、社会教育課所管の町民対象の中国語教室や英会話教室、ECクラブ（放課後英会話教室）、ECレクリエーションを実施するなど、各種地域行事にも参加した。

(4) 国際交流活動

- ・ ECレクリエーション

実施日：令和8年1月13日（火） 場所：白糠学園 参加：児童生徒6名

- ・ 白糠町青少年海外研修

研修期間：令和7年10月24日（金）～30日（木）

視察先：インドネシア バリ島

参加生徒：町内中学生6名、白糠高等学校生徒2名 計8名

参加教諭：茶内中学校1名

※（保護者・生徒対象）事前説明会1回

※（生徒対象）事前研修6回、事後研修2回実施

4 ふるさと教育に関すること

(1) 学校におけるふるさと教育活動の実践

| 学校名 | 主な実践内容 |
|------|--|
| 白糠学園 | <p>【前期課程】</p> <p>1年生（生活） 「身近な人々、地域の場所」 「白学ランドへようこそ」（1、2年生で実施） 「アイヌ文化出前講座」</p> <p>2年生（生活） 「身近な人々、地域の場所」 「白学ランドへようこそ」（1、2年生で実施） 「アイヌ文化出前講座」</p> <p>3年生（総合） 「しらぬか大すき」～白糠町の自然をさぐる 「アイヌ文化出前講座」</p> <p>4年生（総合） 「しらぬか大すき」～白糠町の歴史をさぐる 「アイヌ文化出前講座」</p> <p>5年生（総合） 「しらぬか大すき」～白糠町の食をさぐる 白糠町の食の魅力を発信する 「アイヌ文化出前講座」</p> <p>6年生（総合） 「白糠みんなの仕事」～白糠町の産業をさぐる 「アイヌ文化出前講座」</p> <p>【後期課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育（総合） <ul style="list-style-type: none"> 7年：職業体験（白糠）及び発表、 8年：職業体験（釧路）及び発表、白糠夢プラン 9年：「3つの未来を考える～白糠・私・私たち～」 ・ 自然の番人宣言ポスター作成（美術） ・ 7年：ふるさと調理実習（家庭科） |

| 学校名 | 主な実践内容 |
|--------|---|
| 庶路学園 | 1年生（生活科）「きせつとなかよし ふゆ」～西庶路凧揚げ同好会による凧作り、凧揚げ体験 2年生（生活科）「作って、ためして」～西庶路凧揚げ同好会による凧作り、凧揚げ体験 3年生（総合）「白糠の環境」庶路川を中心に（石炭・生物、川に関わる人） 4年生（総合）「白糠の食」特産品、ふるさと給食、食に関わる人、アイヌ文化講座 4年生（社会）白糠駒踊り体験 5年生（総合）「白糠町のPR」白糠の自然産業、一次産業、三次産業、アイヌ文化講座 6年生（総合）「職業調べ」職業調べ、アイヌ文化講座 7年生（総合）「わたしたちの防災」避難所運営、防災宿泊学習 8年生（総合）「卒業論文プレ発表」 9年生（総合）「卒業論文発表」 ※8・9年生の2年間でふるさとを見つめ、発信、貢献、広める 全学年（学園祭）「西庶路音頭振興会の協力による西庶路音頭の体験」 |
| 茶路小中学校 | 小学3・4年生（総合）「マカヨわくわく調査隊」 ・自然・環境についての探究活動（施設見学・調査活動） 小学5・6年生（総合）「茶路PR大作戦～白糠×エネルギー＝？～」 ・白糠町とエネルギーの関わりについての探究活動・ 中学1年生（総合） ・「白糠町+1計画」町の環境や実態から考察した、施策のPR・人口増につながる手立て 中学2・3年生（総合） ・「他地域と比較し、今後の白糠町のあるべき道を考える」持続的な視点から町の活性化・環境問題の解決に向けた手立ての探究 |

(2) ふるさと参観日の実施

| |
|---|
| <p>白糠町の「ふるさと教育」の一環として、町内の小・中学校、白糠高等学校の子どもたちの学習や活動等を広く町民の皆様にご覧いただくため「ふるさと参観日」を開催した。</p> <p>○白糠学園 11月8日（土） 全学年公開授業 （ふるさと学習発表会、アイヌ文化学習出前講座、ECタイム）</p> <p>○茶路小中学校 11月8日（土） 全学年（ふるさと学習の発表会）</p> <p>○庶路学園 10月18日（土） 学園祭の公開</p> <p>○白糠高等学校 11月17日（月）～21日（金） 全学年の授業公開（授業公開週間）</p> |
|---|

5 負担金・補助等及び交付金に関すること

（単位：円）

| 負担金・補助等 | 交付先 | 交付金 |
|--------------------|--------------------|-----------|
| ふるさと教育学習活動推進協議会補助金 | 白糠町ふるさと教育学習活動推進協議会 | 737,541 |
| 北海道教育研究所連盟負担金 | 北海道教育研究所連盟 | 7,100 |
| 町教職員研究事業推進委員会補助金 | 白糠町教職員研究事業推進委員会 | 1,299,805 |

| | | |
|----------------------|----------------------|---------|
| 語学力・基礎学力のびのび推進協議会補助金 | 白糠町語学力・基礎学力のびのび推進協議会 | 738,326 |
| 自治体国際化協会負担金 | (財)自治体国際化協会 | 631,057 |

6 学力調査に関すること

(1) 全国学力・学習状況調査

【調査概要】

① 調査の目的

- (a) 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (b) 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (c) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

② 調査の内容

(a) 教科に関する調査

<小学校第6学年> 国語、算数、理科

<中学校第3学年> 国語、数学、理科

- ・身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
- ・知識・技能等を実生活において様々な場面に活用する力
- ・様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

(b) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面
- ・学校に対する調査
指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件等に関する調査の整備の状況、など

③ 調査日

令和7年4月～5月

④ 調査を実施した白糠町の学校・児童生徒数

【小学校調査】 町内3小学校の6年生 計30名

【中学校調査】 町内3中学校の3年生 計44名

⑤ 教科に関する調査について

- (a) 小学校6年生、中学校3年生ともに全教科、全国及び全道平均を下回った。
- (b) 教科ごとの結果は以下のとおり

小学校国語

- ① 「A 話すこと・聞くこと」の領域で全国平均を上回る正答率であり、音声言語によるコミュニケーション能力が定着していることが強みである。
- ② 「C 読むこと」の領域において、正答率が全国平均を10ポイント下回っており、文章を読んで内容を的確に捉える読解力に大きな課題が見られる。
⇒文章の要点や構造、登場人物の心情などを捉え、自分の考えをまとめる学習活動を重点的に設定すること必要である。

小学校算数

- ①内容領域の「測定」の分野では、北海道の平均正答率を超える結果であった。
- ②「思考・判断・表現」の観点、とりわけ自分の考えを説明する記述式の問題の正答率が極めて低い結果であった。また、内容領域では「図形」も他の分野に比べて苦手としている。
- ⇒自分の考えの筋道を文章や図で表現する練習を授業に多く取り入れることや、図形領域では具体物を使った体験的な学習の機会を増やすことが必要である。

小学校理科

- ①物理分野である「エネルギー」領域が比較的よくできている。
- ②自分の言葉で説明する記述式の問題が大きな課題である。また、内容領域では「生命」や「粒子」に関する分野の理解度が低い傾向にある。
- ⇒観察や実験の結果をもとに、その理由を文章でまとめる活動を重視することや、「生命」分野では実物や映像資料を活用して興味関心を高める授業が必要である。

中学校国語

- ①文章の内容を正確に読み取る「読むこと」の領域で、全国平均に近い正答率を達成している。また、選択肢から正解を選ぶ短答式問題も比較的よくできている。
- ②これまでの教科と同様に、自分の考えを記述する「書くこと」、特に記述式の問題に大きな課題が見られる。さらに、漢字や文法などの「知識及び技能」の定着率が低い点も課題である。
- ⇒文章の要約や自分の意見を記述する学習を意図的に増やすことや、語彙力・文法力を高めるための基礎的な反復学習の時間を確保することが必要である。

中学校数学

- ①基本的な計算や用語の理解を問う「知識・技能」や「図形」の領域で、北海道の平均と同等、もしくはそれに近い正答率であった。また、問題形式では選択式が全国平均を超えている。
- ②思考力や表現力を問う「思考・判断・表現」、特に記述式の問題が課題である。内容領域では「データの活用」で全国の前年との大きな差が見られる。
- ⇒公式や解法を覚えるだけでなく「なぜそうなるのか」を考え、自分の言葉で説明する場面を授業内で設定することや、関数の変化の様子をグラフに表すなど、視覚的な理解を促す活動が必要である。

中学校理科

- ①学力中位層にあたる IRT バンド 3 の生徒が全体の 36.4%を占め、厚い層を形成している。この層が全体の学力を支えていると考えられる。
- ②学力上位層であるバンド 4・5 の割合が、全国平均とほぼ同じである一方、平均 IRT スコアが全国や北海道の平均を大きく下回っている点が課題である。これは、上位層の生徒が十分に力を発揮できていない可能性がある。
- ⇒中位層向けの基礎基本の定着を図る学習に加え、上位層の生徒の知的好奇心を引き出すような、より発展的・探究的な学習課題を提供する機会を設けることが必要である。

⑥ 質問調査について

- ・中学校では「自分の考えをまとめる」「学びを家庭生活に生かす」といった項目で平均を下回り、学習内容を深めて活用する力に課題が見られる。
- ・子どもが「先生に認められている」「分かるまで教えてもらっている」と感じる割合が全国・北海道を大きく上回り、教師と子どもの信頼関係が良好に築かれていることがわかる。
- ・「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持つ」と答えた割合が小中ともに全国・北海道平均を上回っており、自己肯定感や将来志向が育って

いる。

- ・小中ともに「自分で学び方を工夫できる」と回答した割合が全国・北海道を下回り、主体的な学習態度に課題が見られる。さらに、家庭学習時間についても「1日1時間以上」と回答した割合が小中ともに全国を大きく下回り、学習習慣の定着が十分とは言えない。一方で、教師の丁寧な指導や自己肯定感の高さは成果であり、学びに向かう基盤は育っている。
- ・中学校において「授業で ICT 機器をほぼ毎日活用している」が全国・北海道を上回り、実践的な活用が進んでいることがわかる。また、小中ともに「プレゼンテーションを作成できる」との肯定的回答は全国並みであり、発表力の育成がされていることがわかる。

(2) 町標準学力調査

① 目的

標準学力調査を実施し、本町児童生徒の学力状況を把握するとともに、その後の学習指導に役立てることを目的とする。特に、個人及び同一集団の成績の経年変化を見取ることにより、学校改善プランの見直しを図り、児童生徒の確かな学力の向上を目指す。

② 実施内容

- ・小学校 ～ 東京書籍 標準学力調査 (CRT) による
- ・中学校 ～ 東京書籍 標準学力調査 (CRT) による
- ・本年度の学力の達成状況をより適正に確認し、正確な評価 (指導要録の記入) につなげる。
- ・特に次年度の学年の取り組みに向け、課題を把握し、検査結果をより有効に学習指導に役立てるものとする。

③ 実施時期

令和7年12月 (3学期実施版使用)

④ 実施学年、教科

- 小学校 第1～2学年・・・2教科 (国語、算数)
第3～4学年・・・4教科 (国語、算数、社会、理科)
第5～6学年・・・5教科 (国語、算数、社会、理科、英語)
- 中学校 第1～3学年・・・5教科 (国語、数学、社会、理科、英語)
- 全学年において、i-check を実施

⑤ まとめと方策

- ・全体の成績で小6と中1が目標値まであとわずかのところまで迫っている。
- ・英語では、小6・中1などで目標値を上回る成果が出ており、国際化に対応した学びの成果が表れている。
- ・前年度と比較した経年変化では、小2・小4、小6、中1、中2の5つの学年で成績が上昇しており、子どもたちの努力が着実に実を結んでいる。
- ・記述問題への挑戦や、テストで間違えた部分をそのままにせず「やり直し」をする習慣を、学校と家庭が連携して育んでいく必要がある。
- ・質問紙調査では、5つの学年 (小2・小5・小6・中1・中3) で「将来の夢や目標がある」と回答した割合が全国平均を上回った。
- ・小学校4年生と中学校2年生を除く学年で「平日3時間以上、動画を見たり、ゲームをしたりする」と回答した子どもの割合が全国と比べて高く、放課後の過ごし方を見直す必要がある。